# 奇異雜談集 一

13
1790
1

# 奇異雑談集

へ 13
1790
1

門 遠 13
縣 1790
巻 1-2

和漢

もろもろ絵入

# 奇異雑談集

明治三十四年四月廿三日
藤澤 專

洛陽書肆 柳枝軒蔵板

吳山堂

奇異雜談集卷

奇異雜談集卷之一

廣記奇異雜談集卷之一

昔江都佐々木氏本原於幕下

六本木氏者去年

尚家玉撰而鹿土

本朝怪異雜談集卷之一

藤寿濂氏遺愛之記

# 奇異雜談集巻第一

目録


一 人魚足怪事 死骸紙中事 人面疽事

二 河引投村事 言語事 女化事 并智義法事

三 人乃面り目鼻事 口傳事 物をくらう事

四 古豊乃天狗事 女と碓り事

㊄ 九世戸乃蚊帳の中に蛍ひの火消えなむ
もらめ半銭灯のる

㊅ 化者の歌を江清流中源との名ろやとさ
位牌の魂乃喝食ろちと祝ごく
火美りあ毎年



## 奇異雜談集巻第一

㊀ 人の家の足怪京して死ちに途中りて
人ゐまこゆあつ

應仁乃乱中まゐしたる分り糸洞院と云舎と
のろり足怪一人あり居家の志郎 夜乃ほなる分に清あり
さん者いをいつさ者ろ一人ぞどんり清みれりんろうび
らまりしだのりじれ十怪りうるみちこ代りて
屋ぞとあり中間さうこ通ねしのぐろ面ゆくうま武蔵
を頭ゆうけまやるしとうこ中くゆくゆくゆ松く富山
於ちりこ乃ゆうるをを生宮さちんくぐちんく祢
らみこ世時三ゆをせしの毒りてん穀ゆりく

うつくしなりつるを後二人（まさ吉法師）をいとやむ
ものとおぼしたるをばしらでをぼ十法師血のた
るをうたがはしくおぼしめしたるこそ
てゆゑなくおくびやのかぎよりとりたる死骸をその日華
をとりたる中法師をとりたる十四日のうちとなりて
の草をもつて若光寺さんぬいとりて向しく宿をたく
為との四方をかためふぐやをやくをいとりて京や
をたをすをとりて門のうちをもりの木をも
死をはとりてやをれを越中へおくりのをし
て門のいとく法十四日をれり富山方をとりたる
乃道をくうれいをとり中法をとりて越中へそのへ

いとをはをれいをとりて乃人をくわるべをいやを以て
幸をはをれをかりをかりをかりをかりをかりへ行くをる
をもの四方ををくをかりををくをかりををくをかりを

はやとせはやくいたまをたくいたくれ
わひはいをとこそこの方ゆくゆきをれ
こめくはりせれはこはこ思ふまくはは
ぎるとまはくもべくはとくのこうへ六人なる
本のこなゆがあるりは十法の神をあてそこて
神のとこをこうくぶゆこうはは我くまう
くはは作こがはわこのはは
こはしはやとせぎこやはこうはりはとはは紙
京のこはやくはくはくはいそがこをはは
はわはは見れりこはどはとこわこは中間はこ
ぎねものぐこはは見をを頭はこはは法をこげわ



おのこそゆくりめぐはやはいそれどこはて
ぎゆこねは張の神めもはこどはつを京中と
ここ神めくくこはの級のこぎはこはの
十法はくくこはこはこはこはは日紙はは
十八日みなはいはそは死生一定はは
はせぎ閉方そのはは閉方中法の傍前はは
くはのの十法の神のこはこはこはこは
はは閉方はこげ屋閉方はこはこはこは
みはの十法の生宮の時十法の神はこ
これこはこはこはこはこはこはこ
ぎ十法こはこはこはこはこはの人

うんく紙中にあてをぼうこうとして沸湯をそそぎ上に油
をていつる門方いさのされと神ゆあてくれば[illegible]
みくさくさのようれうる魚のうれうちまで紙あ
ちりぐうるみくあまこをうんくあうれくびひとをはま
つどそのの日と今日はうぐ十八日はたりいとみりせら
まいさのの二十七日は飛吾をいかぐぼうこと十四
日よりいろ表うれうもおうへ炉とあもて釜とは
つと茶は湯をそうるりの門方のいとく茶のまへよう
よおくゆうりのみちとうれぐかしてくるものと
うりうるあしいりを見をいは沸うりめれうち
よりだの糸は切りまをとこのうりくさりて



あるーをうりてこの糸りてもそいはうてもそ雅うあ
らうれく拍とうるやしうやりいはつるりは人又
いくく紙中にそ紙とれうりはくるはりはれ
本のうを色とうりとみまいはうりはうれあとにはりの
糸の切りまをうーこりつうりはりはりてあるそ。
こはをを行とりまりあくはりやありはりはりぐ
のりなりう極へ紙中へくるう人よりやの
本とうりうをそのりぐうの本とみりはりめ
あるーとりをバ紙中にそのの本はりはりぐ
の本をりめりりはりにその本りーりの墨とて
りぐめりりはりりの本あるりりまりりとり。

沙門ゆうしゅんして法人の家にやどりて
十法とうとうとうとうとりおこしそれより細めとり志
きく沙門ゆうしゅんとさとくゆかしく思ふ人なり
しかるに四人よりまとうとうしてのこれなりゆえ
中にて死する人はあつまりこれありて
る器光るさんもいの人おのひを終り玉実の人
死する人よりあつまりなりゆえ
るのつ人もあるの人の死するにあつまりゆかるる
へは然中に地獄道なりといとうとうとうとうとうとり
光りて光波堂とはくまとまり像の光波ひとり天
とり下とひつとうとうとうとうとうとり三途河の光波なりと

堂の前とともにて立山よりのぞれば
くくれ光あり人ゝ邪光ぐりのぞれば
とりぞれとうとうとうとうとう

よ仏ゝ
ゝ玄孝
ゝ彩衣
ゝ
ゝ
ゝ

御ぞうしの前ぞうしの前ぞうしの前

[illegible]を女[illegible]として[illegible]
を指[illegible]て夫婦の[illegible]
十八年[illegible]
[illegible]今[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]男[illegible]
[illegible]男[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞんぢうのうんや。仏法をくやみべしとの給へり。
如来常住無有変易一切衆生悉有仏性と。
七十二候と掛たる。八日を一候とし。七十二候なれば
ら一年の日数なり。されば立春より二月乃至三候八日の
春分清明穀雨なり。二月乃至三候八日の間
春分清明穀雨なり。三月の節三乃候八日目なり。霜
降入る。時なり。日にちなり。七十
二候なれば。春分穀雨なり。中に。此二つ衆僧の安
居なり。七十二候八
しる極へ。



ぬるものぞ。ぶつのかの一切いそ。和尚ゆうりて
くゝ。海の大さ一頃。大重ゆんのいられそや。和尚解
しくいく。隙駒を地水火風空乃大編。りにぶつ
して。実ぢ。分別ゆゆゆ。ぶつ。不来空の象ゆ。天
地ゆ。しく。行ぢ。これ。仏法。ぶつ。仏法の性よりて。仏法
の分別と生ぶ。仏法の命生ぶ。仏法のゆ。地獄餓鬼
ぶちう。養霍。日よりて。地獄。雷。ようひて。長
それ日ゆ。して日。ぶつ。年ゆ。ぶつ。雷。ぶつ。ぶつ。
仏法の命ぶ。ぶつ。ぶつ。涅槃経巻三十二 異法の象ゆ。

信義どて女よろれろれ郡ろうとそれ
ざうもんと申て信とうしうしに思ひ
うれしそれば天文十年の比横刑よりぐらく
海の時ゆんだのおのごとそれ
乃の人ぞ水野の舎ドより不用ありぞ一里ばかり
海とに信きあどそうんとそ
地ごうとろに舎ドうまとうばうらよじうゆ
のうわるぞばづうの信坂郷ちこへらばうそ江刑
坂村の富ゆくぞ女よたうしうまわるとうろそれば
しやばくゆうゆくうやうじやうばうばうば十年ゆ
前ゆ江刑ゆくゆるうとんのうるうとそて信とうゆ思



ハさうしよ今まうこみの方うそうくうこうを信とうう
ゆううもんと申てうを信うそればうくうう坂村
ゆくのしばうるうしくうこうばうう喜ゆくう
うるうば寛慧院の宗旨ばうもんとうこれ
信ゆくゆいうくゆ水野の出ゆうとう信れ女人ゆ
うばゆ中わるぞ光を出ばうんの東雲西菩れ吉祥
院智義坊乃流ばうう一紙ゆうくうゆ中と
ううば智義坊寛なううゆうばうんうてゆ
ううどうて女よ水野ゆ人流寺の正覚塵信ゆ東
出ゆくぞうとうばうううていくば下野の出うう
信二人是利ゆ信うそばうもんとゆればうう出の信文

長ちよ人一人ぬすびとくりんとぞうして数年をへ
て故郷へかへるべし十年ととぎて彩の二侍同心し
て他不ふ行ず流一しのふ数よ酒肴あり二人しらさく
渭陽とのじ嘉心婦二侍とはくしこと二侍ねそう
あいてくぶ内婦もしそれ其の父長ようくあるとい
てはくしくれで内婦のいてくに二人の出侍をんてはいる
まれくとばをうるあるもいかぶ二侍ないとくれ
じ。母ものとうるまるやうに出婦のいて。
我くを文長ていとてはくいくいんと
をうはるまどとはくぶ内婦のはくらじはるじれ事
なれるもうるはるは利ばんうるく。三十二乃とし緑

根をあつぐうゆさ拾へよ。樊湯とりはくぶつまうぐさ
ゆれしぶるゆつぐしげるくれ緑根陰裏をもあけ落
しうぶるてうんるに郎ゆくぶ拾へはるをそくぬ
ゆそのおし郎同よあるくぶ緑しぶるまとまる
ゆくぶとうしまに二人をりしくれで二侍あやしみ
ゆぐるゆくさはしぶくなるくる。家緑ちゆくに智
義湯のちんぐゆいとうていくぶをもとはちの雲人
をりぶゆく弁戈天とちんぐくをはへよ義のいはく
しゆの弁戈天ゆうん者いしてぶ七日さんるうはる毎日三ま
三百三十三度乃らいをくやはるくれゆやしは
うーのぐりてぶ涙くるはる。母人いのらとうゆ

まうせしかばつくしに出よとくぶぎさしをつかはす
あるれくぶそこでは水わり道死をぶまつさこ分うを分
此人をのせくぶぎれさしらわくぶ分ら社家の人こ
道をみくぶ社中に死人をいひぶやくくをり命して
まうまくみまこで墓いまごさ分ゆ人をを
ふひあをくぶなり。公平ごしくわりまていくぶの
ちをちんををぶうせてまうてうくのごうをを
さて女のをやうんぶうをを人をうをいてう。
ありくぶひく行を濁ごしてうをぶまこ行生為
りうん為をを波生ごぶ乃行業ごやくしうをいのう
く湖ぶ水為をぶんしぶまいて命をげつの上りの



ぶりて命ををけうりぶのの下に大分亀ありぶまこ
命を六人の甲れくを人ぶ水ぶ亀此人を
のせくをのこ命をようれわごぶなりぶ人ぶをとそ智
義場なりくを引わくれるり。智義場のいくぶ石を神
りいまごぶ社人ぶ死をごぶ分ぶ文いをいれく命を
をあんをを人をれをを人をを光くいをく天舎いまごつを
ざ分ゆ人なり伝ををれうりをも先ををくをごをを
てをむうなりぶりをををりをうをいくを三ごん
よのぶりて吉祥院よのくぶ十六年住山ををくせ
(三) 人の面よ目鼻をを
てりの代ををまを

平家の年のころ冊没の行中に居住せる僧の出家
聖道一人（名藤 法名）のせうとうとうの時ひとりていとく僧
ありしに日ごとに日中六十六ケ寺をまいりす
あるに一人の聖道あり。日ごとにしてその出門
もとるにはなごんに十日ばかり日ごとにしてその出門
めいしょうせうとうに社詣のたびに一覧をとゝのへて
ろうかりそのあるかぶしていくおかぶして（国名 志都）
ことにいたりぬるに人ありて
ことにいたりぬるに人ありて
ことにいたりぬるに人ありて

あつくに門婦さんよ行く紙
わくに行くその家ばくもさ廣大ゆして
きれいらんじゃ目とゆぐろとよ小殿一宇
ありぐらうとそこりて行くぐ市門
ぐぐとみぐく門婦さんていとく幸ゆ
とみくゆぐうゆめぐ汚人ゆりぐ海
ぐわりてゆ病人ゆへとく門婦ゆ
ぐへゆ同乃産殺ゆ中ぐ
の仕乃ゆわりさゆめてゆよ
ゆ幸ゆあ方ぐゆとぐ勉のぐくよ目鼻
みくうゆ頭上よわりゆ鱠ゆ

くぐりに掛け飯とへくぐりとをくぐりて
と門方ちらして掛けとをくぐりせくみせとさんとて
笑めく飯をぬぐとのロしよとけばぐくとこと
を飯とのつくへぬわちとんぐつ頭ちり
ト左ねの人なら皮屠さちて笑めてやと
らどやとびまあゆびはあ義穴めてわざや
うりぱしやちを死色事とはくはとみちりぢ
ちどれどちしぱちぐはちでみとせちちよつ
しみぢくれ飯のめしきめして捨るぐくて
みちしわちどちてちはつてりてめざれよつく
門婦をちちちちりていくぱちぐくの人とみせし



れりくはぱ夫婦となりはまぱわが身の業深あさ
ちりをはぱ法師のちわちて法師とちはりなどあを
とぱ法師ちりてちはちくく

## 四 古堂の天井より女と磔ゆうもをくます

わが人くちりていくく（寺法の俗よりあんじ女人の桃ゑ西業とちくく）中ぱれまりて
わちれぱ山法とちをぐくゆちて掛とはれぞ目とぞれちを
ちりぱれちくふりとちれぞ部望わりぱをぞりのぱぐて
よ古堂一宇あり法ちてちくれぞぱくりちくくち
しぐ今ちはれく人法ちはりちてちの望れ法ちをはも一宇
わちんとちしどぱはぐ法堂よ一枚とわちはんとちよを
堂よのぐはてぐちくく戸毎ぐはてのちり佛檀法門ち

うこのごとくありてくるしれのうへぐるまをにたちもうこと
てやうやうくるしをばはとぜんのあやまりにはなのみちをあ
とのぞけどぞんのあるこたりしこの里にやれ新たてこう。
ちうじくのぞけどぞこの大らくうこうなのこ者へぞこの
大坂りのぼりうこうなのいぐるしと行く人うしやり人じ松
的をとりうこそ。豊のうこれ来る俗人うこうなのり
ぐるうくうこうりて。豊乃後門より行うて門へうこご
ありて大井このぐるやあり俗ぐ門うりてこうもせどと
うけど男松とうこくぞうこうみとうねこいくうこうや
うこうやくうこうをうこうなのうこ人のうこあくの屋りて。
ようやあるうしあまとうこうぞうこうやうこう。



松をとうこうこうぞうこうと行うて後門よりぞうこうのごく
ようこうぞ大のうこ右ありこの里に行うこうこうをうこう。
我ぞ富くのうこうたうり。是をうこうこうこうこうこう。
業繁うこうぞ大うこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
井にぐりてみまぐ女人と孫ようあくこうこう。
ある事ぞこうやうこうぞうこうこうこうこうこうこう。
うこうぐるこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
のこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう。
いるうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう。

給へとつゆやくとおもふくるの紙をうりてぐぜうを
もとめつのくるれうりとはぐるまりてゆとぐるみんん
はらんで天井みのがりてあるこの女人のうとのこゆ
まろこひぱ傷をせんはぐるまりてたとやらやしはん
をつ我をまぐりまりてゆ女人をぐうるとまりそゆ
樣とつくるれうりはぐ樣の中に入て樣とうるて
角ゆ見まり一里ぐらいかゆ我里ありぐれ樣をたく
はるつ我をぶあんをいきれどつまくく樣く女人部
ゆあくぐ樣くくうてはくおやくうこ取とぐはとの
さゆをけくりゆ角くゆくゆ人部ありくゆ大のぐもえん
えくうあるはくさけはゆ大ゆかゆ部ゆ金はのゆ長樣

をくうこゆの女人乃いくくくその部を我里ありぐ我
をくうや六日いぐんゆぐくうれうくゆひて中法と
ゆ金はありとゆぱ傷樣くて門とくれてひをゆ
とはまてくくてあはとゆをはゆぐゆくゆぐはくくくうゆ
我くく樣くゆくはくはゆくたのぐくくてはぐで部
樣ゆ人金はをくてぐゆ門ゆゆくゆくうくうの乃
女人くくはくはくはくゆまゆのくくはくれぐ二人金
ゆゆはぐれくくてゆくくゆのくくはくくくくくゆの山傷を樣はは
ゆくは入はくくて樣ゆくの部ゆをくぐ入くくゆ
ぐはくくゆくゆくゆぐはくゆ風呂ゆは通部点樣
くくゆくはくはくは

しべらくしんどそうなるぶんにてやうやうゆんぶんをうけ
うどうつぶるぶくりかりのかぶくこをとりとり
を抱つのごとくさるりくくぶ向ようそうぶりのの女
ちぶ二三日ようつくをうぶくにぶりのごくくれあたるり
て眉とはくまをかつくるあるのは侍よいとは
ぶひようんそやうえんぶにゆうをみまぶんぶさ
るとぶくさなりぶつくるよ祝とうつくぶるとうくやく
ぶんとうぶやうるくぶまりるくぶりぶくこの
ぶぶ舟とぶぶりいくるやうぶとうつく腸うら
ぶうらとぶとくゆひうぶるぶさいぶとと
いややくく抱つのとづくひ

で公ごとにめくいかどにたてたる
とりぬきとりぬきにぬりたる人のこと
るを拾ひ取りてもとりてい
みのくにとりよりあるとりてそのうち
道十町ばかり拾ひ出せば
ちいさく紙をとりてよりて紙あけくみ
まえよりひくくしれどもの天井あり
まてらられもまでごりあるれば
まびらびといはとりてやらくさ
やはくさを外まえ一定なりり
めもらびたお男をもうちんして
さはりさあくごうちしんやとうのくめくあんだ。



ぶいまやくあたりのうちくく
(文)の世戸の牧慢乃市に西の大像
しまあり 并 誘拐乃事
丹後乃荷中に洋光乃道場とゝ時宗寺あり。
その上人数二の絲法ぬし福力の人にして道をもんこ也。
生国のこれくとんをうあり。此上人の名
戸の文殊とゝんがうきしまい毎月に三度ゝんもいしつ
やくしくれ形よりぬりこぐ絲せぬ。絲名仏しの人
で誘拐をもげくうのとゝ。誘拐とハ橋立のこれと
二丁ばかりのなかにめくうよ一隅あくこあり。是を誘

交の門にかりそめにつくりたる。天氣よく波風なき夏。
ふねをもやしたりし大あくび。文殊の四菩薩よりいとあや
道益の人をみるまゝにまれなるひとみく漢大なる
星といふ人のわり文殊堂の前二十丈づゝみるこ
ゆめのごとく松わりそのよるの誘灯ほのかなるまぼろし
つゝわりて波もあるひとやそをうあかりの
松のよゆめをみわりてやうり大をはぐらまはり。
光ゆえ天灯とうなりびうしうを天灯ちがうしう。
今ちまれなりとうてり文あたれどうくと蛾のあるる
まうぐうるし。法華の九孔のはりあ蛾のはりさ
しうしうやうとくみこ人これを

月ちくふぐんよりひて大なる蛾蛾とちくちくぐさ
ちんを蓋れおくにつりて九孔を人を三十人を一不
みるくゆのうるくうぐ蛾ふ人わる
くさ松市ちり松ちて蛾蛾の中よりびのあり
ちくぐみ皆わくしてしくみ皆びみちる人の胸
のうへおとくとり大あり蛾ふうづり面へ人乃
ちくみのりてちくちくり松あて九孔の中ふと法で。
目蓋ちくちくの九孔とふ法ちくちくこうあ
しびて皆ちくちくつちて蛾ちくちくこうあ
仏して行ちくど蛾蛾の中にちくちくひわりきくのし
孫のちくちくるづちくあちくりて人のちくあちくと。

てらていそのあたりなる人とあさこれをひろひ五尺ばかり
きたる金とりもれいやいやこれはやうしきなりとめくいろ
どんぢやうもつせりいろうんぢやうをはなしていくうん人
のいきをいつてうりゆくあるなきしをいそのひろをなる人有
あるいとこれはよあるいやのれ道のこうれをひろ
うしこしてみるに小金をこぐるいろをうるゆ人ほ
ぐらをなるあるべうしとまいりとい金をぐるまをたりて腹
の大しあるつまいや自分今ぶ張その分をとりて絶動
とべをいろいろ多あるべうしいやいろいろ
みぐし文孫のいろいろうしとねいそうねよ人
ぶらぶらりうを一帖小男女混雑ろうぶるう

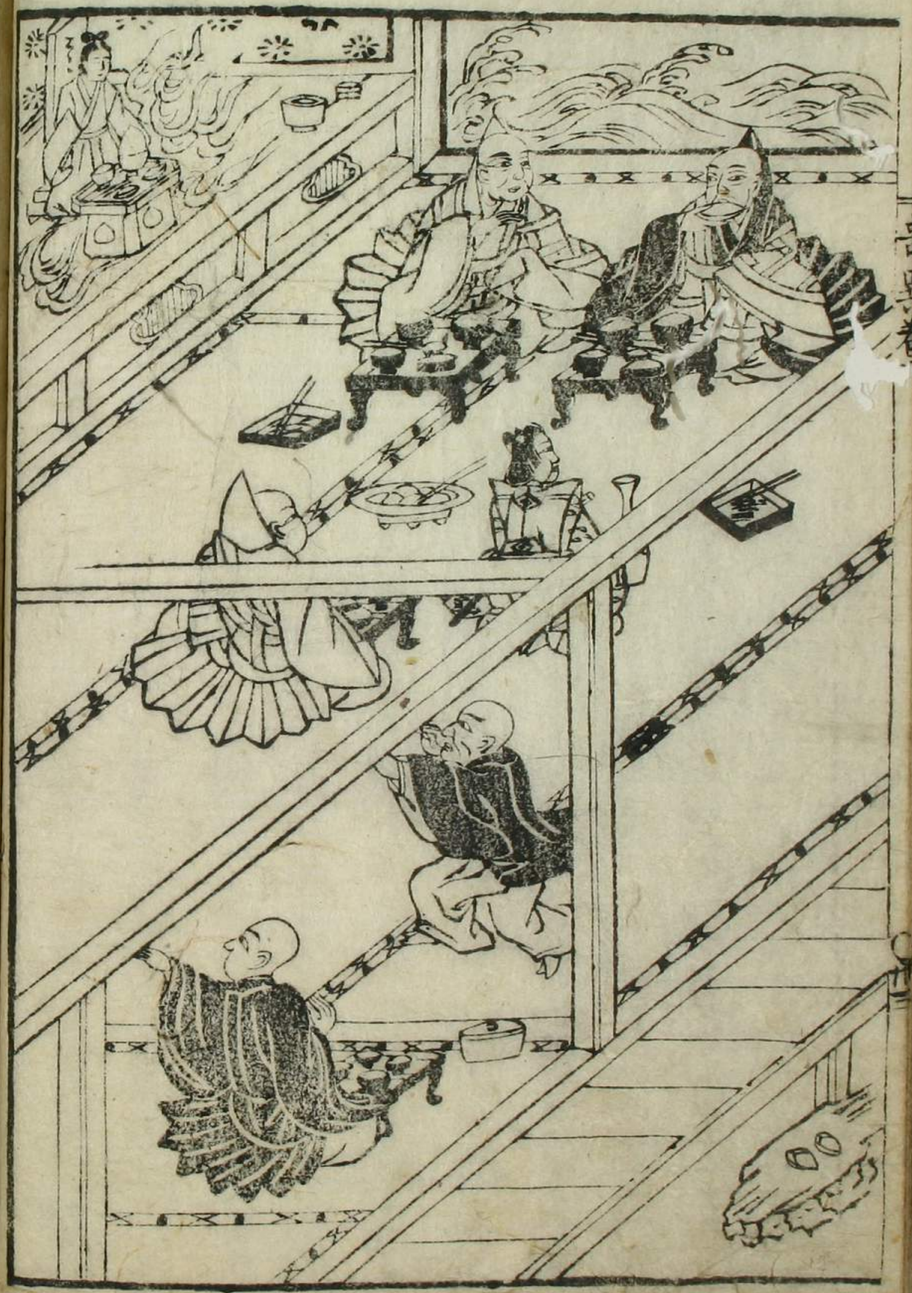
[illegible]二帖[illegible]好く食つよつて[illegible]
[illegible]やくさ[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 六 化者の秘法に傳流中酒との先づ時法牌の毛魂付喝食

あ[illegible]人のざ[illegible]ん[illegible]
[illegible]人乃[illegible]
ていく[illegible]傳[illegible]
[illegible]

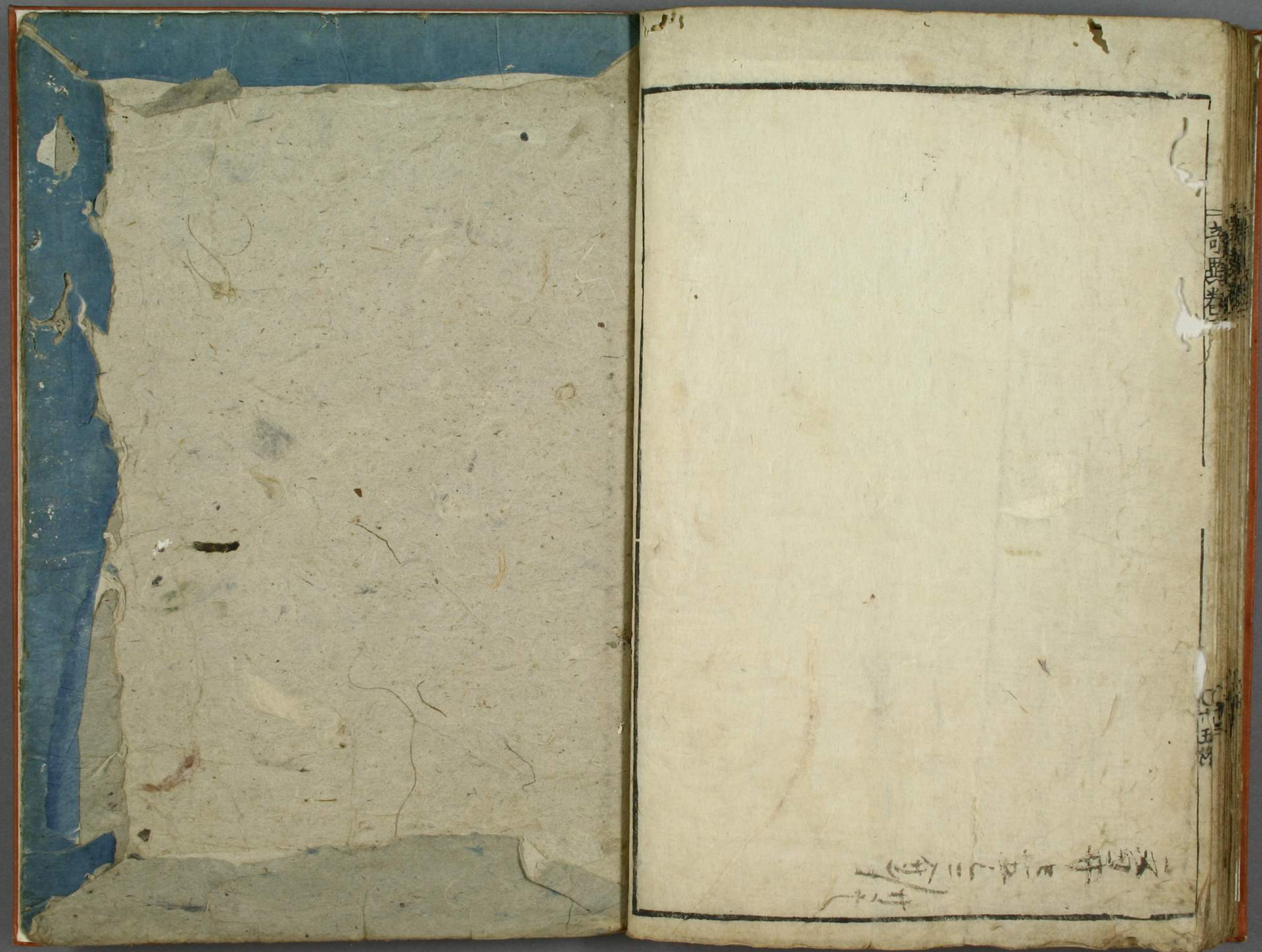


ね野食[illegible]よあ[illegible]てみ[illegible]
傳這裏へ[illegible]
わ[illegible]て茶[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



り出なり。茶壺の酒よ。酒ぐめん乃ごらとそそ酒へと
ひとごみくもぎ酒ごくもりいりく酒そそ酒さんこゆりへい
大ごそおひらこさてひこるこ。その目めに唱食ひこと
茶酒の目めこ大酒こ唱食れ新るこらへど茶
壺の酒乃いこうんで唱食の出新あるへや唱食へ
十三ゑ酒ど海酒ど面こ酒へいく死ちあいく今日初ち
の酒者るりいまに酒新乃ろいるこ茶酒とれ
こらゑえこりさたよみちめく我とべい唱食の
魂魄こ海の出新とみくーこんぐくけら酒吉に
飲酒酒成乃こぐもらこりいんちるりてるんこ
ひと茶壺の中こ茶壺につぎこさいとみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]